

# NPO法人オンザロード 福島支部エフワールド

## 復興祭活動報告書

平成23年10月15日～10月16日



### 【基本情報】

日時：平成23年10月15日（土） 16日（日）

場所：福島市 街なか広場 〒960-8035 福島県福島市本町1

参加人数：延べ10,000人

入場：無料

受益者、またその人数：福島県外に避難されている方々、福島県在住の子どもたち、またそのご家族（以下、内訳詳細）

USA ダンススクール参加児童 70名／ダンスショー参加者 48名／Beat of Fukushima

F-WORLD×福島大学 福島大学生20名／石巻復興瓦礫神輿 担ぎ手80名／ワークショップ

参加者延べ 8,000名

## 【活動概要】

普段は外で遊べない子どもたちや、それがストレスになっている県民に思い切り楽しんでもらい、福島を盛り上げられるような復興祭を2日に渡り開催しました。その中で、著名人であるEXILE USAさんをゲストに招いて、福島県の子どもたちやダンススクールに通う子どもたちへのダンスレッスン・ダンスセッションを実施、ペイントアーティスト講師による図工の時間、高さ20メートルまで飛ばせる紙飛行機作り体験、石巻で制作した瓦礫神輿渡御、地元飯坂太鼓の演奏、著名人によるトークライブ、その他様々な催し物など、子どもたちやその家族で気軽に参加できるプログラムを実施致しました。

共催：NPO法人オンザロード／NPO法人ハッピーアイランドサーフツーリズム BRAVE PROJECT

企画運営：福島復興プロジェクト F-WORLD実行委員会 BRAVE PROJECT

後援：福島市

協力：SHREDDER Di／笑夢／みなせん／来音／NEO／ABSORB／浪江焼きそば／アルツ磐梯

## 【復興祭 内容】

□ダンスレッスン

USA(EXILE)

□ミュージックライブ

MAN WITH A MISSION／大山 奈緒（シャンソン歌手）／福島大学学生

□トークライブ&映像

高橋 歩（作家・自由人）／小林 崇（ツリーハウスクリエイター）／久米 満晴（写真家）／  
奥本 英樹（福島大学准教授）／井坂 啓巳（プロサーファー）／佐藤 修一（プロサーファー）／平 学（F-WORLD事務局長）／大山 峻護（格闘家）／河田 純子

□伝統ショー

石巻瓦礫神輿(福島神輿連合会)／飯坂八幡神社祭り太鼓保存会

□ペイントショー

REI／SAL／MAKO／NOUE JUN／山尾光平 asBAKIBAKI

□BMXショー

北山努／田中光太郎 石田崇イッシー（専属MC）

□体験レッスン

スケートボードレッスン／サーフィンレッスン／紙ヒコーキ作り

□フード&展示ブース・・・笑夢／みなせん／来音／NEO／ABSORB／regaletto／agato／

円都／浪江焼きそば／アルツ磐梯／YES.／NPO法人オンザロード／F-WORLD

## 【活動の背景・目的】

現在福島は東日本大震災の影響、放射能問題の影響でメディアからマイナスのイメージとして取り上げられています。簡単に復興できない福島だからこそ、この県を楽しく盛り上げていこうという思いの元、福島住民の方々への明るい光となるような活動、安心して暮らせるような活気溢れる街づくり・コミュニティ作りを目指し、今回の復興祭の開催に至りました。

## 【活動の詳細】

### ■EXILE USA ダンススクール 開催 10月15日（土） （参加人数 約70名）



復興祭のメインプログラムでもあるEXILE USAさんによるキッズダンススクールを開催しました。

「ダンスや音楽の力で少しでも元気や笑顔につながって欲しい」というUSAさんの思いで、今回ご協力して頂きました。市内にあるダンススクールの生徒はもちろん、ダンス初心者の子どもも気軽に楽しめるような内容で、子どもたちに夢や希望を持たせるようなプログラム作りを目指し、会場にいた子どもたちから参加を募り、約1時間のスクールを行いました。

子どもたちとUSAさんのセッションの中で、EXILEの代表曲でもある「Choo Choo TRAIN」のセッションやパフォーマンスで共演したり、最後に参加してくれた子どもたち全員へEXILEオリジナルTシャツをプレゼントして下さったりと、大変盛り上がりました。

会場に来てくれた多くの子どもたちを初め、経験者・未経験者に隔たりなく自由に参加して頂き、のびのびとレッスンを受けることで、少しでも体を動かせてなかった事に対するストレスの軽減となったのではないかと考えています。

「ダンスの振りを覚えるのが楽しかった。またダンスをしたい！」や「USAさんと会えて嬉しかった！」などの意見も沢山頂きました。

講師： USA (EXILE)

## ■ダンスショー10月15日（土）開催（参加人数 48名）



EXILE USA、同事務所ダンスパフォーマー3名の方を審査員に迎え、福島市のダンススクールに通う子どもたちや大学生など、計9チームが参加するダンスコンテストを開催しました。

最近の福島では原発の影響で、子どもたちのダンスショーなど発表会の開催はあまり行われていないため、今回の開催で、向上心・達成感・チームワークを感じてもらえるようなプログラム内容を目指し、1チーム4分程度の曲で披露してもらい、約1時間30分のコンテストを行いました。各スクールでF-WORLD2011復興祭ダンスコンテストの為に練習をし、手作りの衣装、お揃いの衣装などの準備も進めていただきました。

全チーム、個性溢れるダンスを生き生きと披露し、最後にUSAさんからプロとしてのアドバイス・コメントを頂きました。これにより、更にダンスを続ける励みや自信、表現力、友達との友好に繋がるコンテスト内容になったのではないかと感じます。また今後、より多くの子どもたちの明るい未来や楽しい福島の場所作り、放射能問題によるストレスの軽減となる企画を提供できるようプログラムを継続して実行して行きたいと考えます。

### <参加チーム>

Funk You(福島大学) 9名/PASS(聖母短期大学) 3名/つぐみ/たけみ(福島大学) 2名/ペケノ  
ーアンジョ 6名/33RIZE 3名※中学生/LUNARルナル(VIVIDダンススクール)3名/Pzou7  
(K-マニフィック ダンススクール) 7名 ※幼稚園～小学3年/NAMIE30(波恵ダンスス  
クール) 7名 ※中高生/FLEUME(フローヴダンススクール) 8名

## 【Beat of Fukushima F-WORLD×福島大学】

10月16日（日）開催（福島大学1年生から4年生の20名）



全て自分たちでの企画・準備・進行を行い、その過程を経験として培うのと同時に、自立心・チームワークなどを養ってもらう中で、これから社会に出て行く若者に夢や希望、自信に繋がってもらうことを目的としました。1時間のプログラムでは、大学生独自でのPV撮影披露や、震災の影響により瓦礫となってしまったものを楽器にし来場してくれた方々を巻き込んでのパーカッション演奏、リンボーダンス、福島県民の思いの叫びなど、お客さんを主体とし会場にいる皆で楽しめる内容のプログラム企画を実行しました。福島県に住んでいる学生達がこれから自分たちの未来への糧となるような考え方、実行する力、そして自信がついたのではないかと考えます。

企画・進行：福島大学 学生

## 【飯坂太鼓】 10月16日（日）開催



「飯坂太鼓」は毎年10月に福島市飯坂町で行われる福島県の代表的なお祭りのひとつ、「飯坂八幡神社例大祭（けんか祭り）」の祭り太鼓で、300年以上の歴史があるとされています。「けんか祭り」は神輿同士が激しくぶつかりあい、その迫力と華やかさは観客に興奮と感動を与え、県外からも多くの見物客が訪れる有名な祭りです。この太鼓の力強い太鼓の音色は、通常10月に開催される祭りでは味わう事ができませんが、福島伝統を再認識してもらう事と、飯坂太鼓本来の持ち味である、神輿が激しくぶつかり合う中でも太鼓を叩く手をとめず、最後の最後まで叩き尽くすという意味を知ってもらいたいという思いで、祭り太鼓保存会の皆さんの協力の元、このプログラムを実現する事ができました。当日は、太鼓の演奏が開始したと同時に会場内が静まり返り、誰もがそのダイナミックな演奏に耳を傾けていました。初めて演奏を聞

いたという方や、子どもたちの中には太鼓に興味関心を持ち、地元の太鼓隊に参加してみたいという嬉しい声を聞くことができました。

演奏：飯坂八幡神社祭り太鼓保存会

### 【石巻復興瓦礫神輿】10月16日（日）開催



弊団体の東日本大震災の災害支援活動拠点のひとつである、宮城県石巻市もまた大変な被害に遭い、地域住民の方々と共に弊団体では今も尚、現地での復興活動を続けています。復興瓦礫神輿は住民の方々の大切な財産であり、沢山の願いが込められています。当日は会場にて、着実に復興へと向かっている宮城県石巻市での活動を映像で流し現状を伝えることで、同じ東北地方である福島でも神輿に復興への活力と新たな願いを込め、地元の神輿連合の方々の協力の元、当日来場して頂いた皆さんにも参加して頂き、渡御を行いました。

福島でも伝統あるお祭りがある中で、今年は自粛という形をとった地域行事も多く見られます。その中で、今回の神輿渡御最大の目的は、被害に合われた方々への冥福と祈り、そして新しいスタートをきるための願いと誓いをテーマに、子どもからご年配の方まで幅広く渡御に参加して頂きました。祭り本来の醍醐味である大きな声を出しながら元気よく練り歩くという事は、福島の住民に必要な精神的ストレスの発散の場として大きな意味を持ち、プログラム途中、涙を流して見守る方も見受けられました。

協力：福島神輿連合

### 【高橋歩トークライブ】10月16日（日）開催



今回、福島復興プロジェクトF-WORLDの発起人、高橋歩の声を福島の住民の方々に届けました。震災後、高橋が長期に渡り継続して行ってきた支援活動、そして歩んできたライフスタイルの講演を行い、若者を中心に大きな夢と希望を投げかけることで、今置かれている厳しい状況の中から新しい兆しとなるようなヒントを沢山得ていただける場となることを目的としました。さらに、EXILEのUSAさんや、東海学院大学・金城学院大学非常勤講師でもある中島史朗さんにも参加して頂き、震災の話からそれぞれの原動力の話まで、とても考え深い講演内容となりました。

講演者：高橋歩

ゲスト：USA (EXILE) 中島史朗 (東海学院大学・金城学院大学非常勤講師/愛知県立大学生生涯発達研究所 特別研究員)

### 【福島ビーチ再生計画】10月16日(日)開催



福島の沿岸部の一部は今季、海水浴及び行事を全て見合わせました。震災が起こるまで福島には、全国でも有数のサーフスポットが点在しており、サーフィンの国際大会が開かれるなど、県内外から沢山の観光客とともに、海岸線沿いの街は活気に溢れていました。自然という財産に囲まれて暮らし、大地の恩恵の中で共存するスポーツ、それを愛してきたプロサーファーの方々を中心にまた福島の美しい海を取り戻そうと様々な面からディスカッションを行いました。県外から見る福島の現状と、福島で暮らす住民の意見を取り入れながら、今後のビーチ再生計画活動の道しるべとなるような場となりました。

講演者：奥本英樹 (福島大学経済学部経営学類准教授) / 井坂啓巳 (プロサーファー) / 佐藤修一 (プロサーファー) / 平 学 (福島復興プロジェクトF-WORLD事務局長)

## 【その他のコンテンツの紹介】

### 【F-WORLD・ON THE ROAD 本部テント】



今までの活動内容のパネル展示や、フリーペーパー配布インドの子どもたちが作成したアクセサリーの販売、F-WORLDの年間活動計画の紹介、F-WORLDキッズの募集などしました。各ブースに募金箱も設置し沢山のお客様にご協力頂きました。

### 【支援物資ブース】



3.11東日本大震災、被災時に日本各地から支援物資を頂た冬物衣類、おむつ、生活用品などを放射能問題で避難されている方に提供したり、一般の方に100円～2,000円で販売し、売り上げ金を支援金として頂き多くの方にご協力頂きました。

### 【ツリーハウスブース】



ツリーハウスに関する本の物販や、これから福島市街中広場に常設して行くツリーハウスの説明をして頂きました。小さい子どもも小林崇さんがいらっしゃると言うことで自分で考えた秘密基地の説明など真剣に話し、小林さんもとても嬉しそうに対応していました。

### 【子ども縁日】



F-WORLD本部にて輪投げ、水ヨーヨーを設置し、どちらも無料で提供しました。親子での輪投を楽しんでもらったり、水ヨーヨーは200個用意したのですが、すぐ無くなり大好評に終わりました。子どもたちの一生懸命に輪投げをしてる姿や、水ヨーヨーで楽しそうに遊ぶ姿が多く見られました。

### 【スケートボードブース】



福島スケートボード協会の方がコーチとなり、若い子どもたちから女性、未経験者を中心にスケートボード体験を開催しました。経験者の子どもたちも未経験者の子どもたちに教えたり技を見せ合いながら、楽しんでいました。

### 【紙飛行機を飛ばそう！！】



柏谷悌三さんによる紙ヒコーキ教室の開催。柏谷さんの作る紙ヒコーキはゴムで飛ばす、オリジナルの紙ヒコーキ。手元を離れた瞬間、時速 80 キロで一気に 20 メートル上空まで舞い上がりました。ご家族そろって参加して頂き、子どもたちは夢中になって紙飛行機を青空に向かって飛ばしていました。



### 【図工の時間！野外お絵描き】

ペイントアーティストの皆さんが講師となり、子どもたち、ご家族一緒に自由にお絵描きをしたり、自分オリジナルのプラ板のキーホルダー作製、Tシャツのデザインなどをしました。

## 【活動の成果】

今回の来場者は子どもたちはもちろん、10代20代の若者から、ご家族連れ、ご年配の方々まで幅広い年齢層に楽しんで頂きました。多くの著名人の方々から直接レクチャーをうける事ができるワークショップや、トークライブは、子どもたちに夢と希望をもたせ、当日、沢山の笑顔と笑い声に溢れる福島になった事となり、今回一番の収穫だと感じました。

その他にも、福島の伝統ある飯坂祭り太鼓保存会の方々による太鼓演奏や、福島神輿連合の方々協力による石巻瓦礫神輿の渡御は、低迷が続く福島の伝統行事や観光業界にとっても大きな活力となり、復興に向けての大きなPRとなったと思います。まだまだ問題が山積みの中、地域住民同志のふれ合い、そして県外の来場者との交流の場となった事で、意見交換やコミュニケーションの時間が増え、参加して頂いた方々、そして運営側にも、今後の福島の明るい光の道しるべになったと考えられます。

## 【今後に向けての課題】

催しものの多くは、子どもたちを中心の考えた内容で行い、沢山の皆様のご家族連れに参加して頂きました。直接お話をさせて頂いた中で、放射線問題のストレスは、子どもたちだけでなく、子どもたちを守ろうと気遣うそのご両親やご家族にも多大な精神的苦痛を、あたえているという事を、改めて実感しました。今後の活動では子どもたちだけでなく、それをとりまくご家族やご両親のケアを行いながら、家族でも楽しめるような内容プログラムを取り入れていきたいと考えます。